

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケア サポート		
事業所名	グループホーム若葉園		
所在地	熊本県球磨郡多良木町大字多良木1,537		
自己評価作成日	平成23年11月 2日	評価結果市町村受理日	平成23年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成23年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多良木駅から徒歩で3分のところに位置し、周りにはえびす温泉、えびす物産館、多目的グラウンド等が集まり、環境にはやさしい雰囲気があり利用者の皆様のケアには大変すばらしいところです。同敷地内に小規模多機能ホームわかば園があり、敬老会、運動会などお互いに行き来し交流を深めています。また小規模のホームの隣には共生施設があり、学童放課後保育が行われています。高齢者の方には、子供たちの声を聞くだけでも表情が柔らかくなり笑顔がみられます。学童の子供たちは、夏休みや行事があるたびに駆けつけてくれ、高齢者とのふれあいを大切にしてくれています。これからは地域の人と関わり合いを大切に行きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム他、小規模多機能ホームや共生施設の中での学童保育等地域住民や老人会、小中学生等との世代間交流を先駆的な取組みとして積極的に展開している。今年度は職員の意識改革の時と捉え人材育成に取り組み、運営推進会議での意見や外部評価結果を真摯に受け止め具体的な改善へと反映させている。職員の笑顔でのケアが入居者の笑顔を引き出し、高齢化の中にあっても手芸や書写、台所に入る等得意分野を見出し、入居者と職員が笑いあいながらの和やかな日常の中に、毎月行事を計画しメリハリのある生活を支援している。家族への個々の詳細な報告は安心感となり、家族からの信頼感も高いホームである。今後も地域住民との交流が認知症ケア推進となることが大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアーのよく目に付くところに掲示し職員一人ひとりの目環境に配慮しているとともに、毎週月曜日の朝礼にて唱和し、サービスの向上に努めている。	開設時の理念を、職員の入替わりにより全員で話し合い今年度も継続、地域密着型ホームとしての意義や役割を反映した6項目の理念を平易な言葉で具現化し、職員の日々のケア規範とし、唱和により意識向上や理念に則り話し合っている。理念の一つである“地域社会とのつながり”の実践である地域との交流は入居者の“楽しみ”となり、地域住民への認知症ケア啓発の一環としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、祭り等に参加したり、学童保育や共生施設の利用によりグループホームにも出入りが増えてきている。町内はもとより、町外からの体験学習の受け入れも、交流は確実に増えている。	同敷地内の共生施設は地域の公民館代わりとしての役目を果たし、多くの地域住民が訪れ、学童保育等の子どもたち等との交流、小・中学生の職場体験では町外からも受入れ、定期的なボランティアの訪問等多岐に亘って交流している。また、散歩中住民との歓談の中でホームに立ち寄ってもらうよう声かけし、公園に遊びに来た人々が立ち寄られることもあり、立地条件を活かし交流拡充を図っている。	共生施設利用者の立ち寄りも多くなってきたおり、AED設置をアピールし、いざというときに利用して頂こうという意向である。地域の中での基盤は確立しており、今後も入居者が地域とつながりながら生活できるよう継続されることを願いたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	若葉園グラウンドゴルフ大会で認知症のことを挨拶に必ず話し興味を持っていただいています。また、地区の寄り合い等に参加した時には、短時間の認知症の話をしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーは行政、地域包括、区長、民生委員、家族代表、利用者代表と多彩で、全員の方を指名し意見を述べてもらいます。今年はテーマを決めて認知症の勉強会等行っています。	開設時からの関わりのある社会福祉士や行政・地域包括の他、利用者も参加する等多様な関係者により2ヶ月毎に開催している。委員や家族からの多くの発言や、意見は的確な良いアドバイスと真摯に捉え、特に家族の意見を受け全職員で話し合い、研修の充実へと繋げている。また、外部評価結果等全てを報告し委員と会議のあり方を検討したり、認知症の勉強会等テーマを持った会議としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの情報等は直ぐに連絡をいただいています。園からは、利用者の情報や相談等役所に出向き協力、相談をしています。	役場が近くにあるという立地を活かし、利用者状況報告書の提出や健康保険介護課には若葉園様との連絡トレーが設置されており頻りに訪問し情報交換を行っている。管理者は介護計画策定委員として参画している。	今後も行政と協働しながら認知症ケア推進に取り組まれることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳を第一に、身体拘束、虐待の勉強会を行い、実践に繋げている。また、外出の希望があれば職員付き添いで散歩をしている。夜間施錠が基本としている。	“身体拘束ゼロ宣言”をしたホームは、危険行為や職員がヒヤッとした体験等の事例を話し合ったり、虐待についても職員の提案により話し合い、“伝える かくさない 見逃さない”を再確認している。外出傾向に、性格・習慣を把握し、個々の状況を踏まえた的確な言葉かけ等対応方法を検討し、不穏・興奮状態の回避に夕方から散歩に出かけることを約束し一緒に出かける等工夫してケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努め	研修で学んだことは社内研修時に報告をし、虐待に対する考え方を認識してもらっている。また、手のあざ等介護際につく内出血等、介護の工夫も話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用はないが、研修会に参加し、社内ミーティングにて制度について話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には契約書、重要事項説明書の内容を十分に説明し、質問等受付し余裕を持って契約をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の方とコミュニケーションをとり意見を聞きだす事に努めている。近頃は利用者の食事嗜好について献立のメニューを変えて調理をしています。	何かしてもらいたいことは無いが、家族が出来ないような事等を引き出したいと入居者と日々コミュニケーションを図っている。利用料を持参払いとし、家族には気軽に何でも話してくださいとお願いしている。会長招集により開催される家族会は、家族同士で話し合い代表を通じて意見や要望が出される他、運営推進会議も問題提起の場として活用されている。食事や職員の研修強化等入居者・家族の意見が反映され、家族と職員との忘年会を開催する等相互の関係が構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体朝礼の時に代表者は経営や運営の意向を伝えまた、週一回のミーティングの終わりには質問、要望等を聞いている。	毎週両ユニットでの会議、その後のユニット毎の話し合い、毎月の全体会議と代表者参加される会議を開催し、経営・運営方針の共有化を図り、業務内容等質の向上を目指し話し合っている。夜勤対のシフト変更にも、まずは1ヶ月間やってみて、全職員が良し悪しを話し合い確定させている。また、職員同士も昼食後の時間を利用し意見交換を行う等常に問題意識をもってケアに当たり、職員がテーマを決め進行する週毎の研修等ブラシアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備	代表者は職員の個々の能力を出せるような環境を作り、退職金の導入などやる気の出る職場環境の整備の努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はもとより資格取得の費用を全額会社負担とし、仕事に対するやる気と自信を持ちながら業務に就けるように支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ではグループホーム協議会が組織され2月に1回の研修会と、12月には忘年会が開催され、交流も盛んである。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所まえの聞き取りを参考に本人と家族の不安、要望を聞き取り、安心して生活できるようにカンファレンスにて介護の統一をはかりプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より家族の方に園内見学をしてもらい園での雰囲気を感じてもらっている。月末に一月分の利用者の方の生活、体調、行事等、担当者が書面にて報告をしている。病気、事故等はその都度連絡を入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所直後、暫くは頻繁に連絡を取り合ったり面会を促したりして利用者の方が一日でも落ち着き、早くなれていただくように支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできること(掃除、洗濯物干し、たたみ野菜の皮むき、刻み)などできることを職員と一緒にしたり、このごろ利用者の方が他の利用者の面倒を進んで見ていただく光景があります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとに家族の方をご案内し、利用者、家族、職員の信頼関係をつくりお互いに何でも言える環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人面会時には記念写真をとり双方に渡し、再度の来園をうながしたり、出身地域へのバスハイク、祭り等に参加したりする。親戚関係の集まりの時は家族または職員が付き添いで出かける支援をしている。	知人や同級生等の訪問時に他の同級生もお誘いくださいとお願いし、入居者の生活圏の祭りに出かけたり、家族との外泊や節句に自宅へ送迎し家族と過ごされる方、髪のカットに家族と出かける等家族の協力を得ながら、馴染みの関係継続に取り組んでいる。入居者が生活されていた場所を思い出されるようにバスハイクを計画したり、暖かい日には自宅に帰ってみる方もあり、初詣や季節毎の慣習を継続し、法要等への参列等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の性格や意向を汲み取り、席の配置をかんがえて気分良く生活をしていただいている。利用者間のトラブルの際は職員が直ぐに間に入る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、定期的に病院、施設を訪問し面会をし、そのたびに家族との連絡をとりあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成者は入居前のアセスメントにより本人の希望、意向を確認し、入居後も必要時にカンファレンスを実施し本人の意向の把握するようにしている。意思の疎通が困難な場合は家族との意見交換や入居後の行動、表情などで判断している。	今年度は、認知症や自分の意見をうまく伝えることができない人や興奮状態時等のコミュニケーション方法を学び、事例を介して全職員がレベルアップを図っており、日常の中で個々の思いを把握したり、ジェスチャーを交えた会話、表情・言動に真意を推察し、“今”を視点に本人本位になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、家族、CM等のアセスメントにて生活歴、嗜好、サービス利用の過程等詳しく聞き取り把握をしている。また面会のときに職員からの生活パターンを再確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者、職員は毎日の生活支援の中で、観察記録、情報交換により把握をしている。また本人に出来る事はして頂こうと声掛けするものの無理に作業、レクリエーション等に誘わないようにし、様子を観察をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向を大切にユニットカンファレンスを行い、本人に合うケアプランを全員で検討し作成をしている。	毎月カンファレンス・モニタリングで担当職員の気づきや観察結果を話し合い、認知症状に著しい変化があったり、転倒事故等に随時話し合い現状に即したプランを作成している。医療サイドからの意見をもとに本人・家族・施設長・介護計画担当者・ケア担当職員参加により担当者会議を開催し処遇方針を決定させ、今年度はモニタリング実践記録・経過管理表を改定し、全職員が個々のプランを把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践にあたり、本人の変化を巨く気づく様な洞察力を養いながら、職員全員が記録により情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅希望の利用者が家族の都合で向かえにこれないとき自宅までの送迎や、個々の買い物などの支援等をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、ボランティアの訪問を地域に呼びかけたり、非常時の対応について消防署、行政に指導を仰いだり、共同訓練をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に密な連絡、連携体制がとれており定期的にホームを訪問、緊急時には往診などの対応をいただいている。	協力医療機関をかかりつけ医とする入居者が殆んどであるが、入居前からのかかりつけ医を継続される方もおられ希望に応じ支援している。定期受診をホームで対応し、協力医からの紹介先への受診には家族の同行を依頼している。協力医とは時間調節による受診や緊急時の往診など連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身状態の変化を見逃さないように、気付いた情報を看護師に伝え、利用者が適切、迅速に受けられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状況を医療機関に報告し、入院時には看護師、担当医に治療状況の把握をしている。また利用者に安心感を与えるため、職員が毎日のように面会に行き、声掛けや食事の介助など支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化や終末期に向けて、初診時に		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、契約時に出来ること出来ないことを家族に伝えている。またホームで出来る支援を家族、かかりつけ医、管理者、職員と協議し医師の指示の下に支援をしている。必要時には医師より家族に説明をおこなってもらっている。職員に対し終末期の介護支援の講習をしている。	ホームで対応できる支援の説明を契約時に行い、入院後等の変化時に医師を交えた話し合いの場を持っている。本人・家族の希望に沿い今後の体制づくりに努める意向であり、グループホーム連絡協議会の看取り研修に参加している。また、協力医を講師に施設内研修を行うことが検討されている。	今後も関係機関と連携を図り、本人・家族の気持ちは変化が生じることもあり、繰り返し話し合い、方針の再確認や、「このホームで最期まで」との家族の思いに応えられるよう介護・看護力のアップに継続されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署、協力医を招き講習をおこなっている。また、緊急時に備えマニュアルをよく見える所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練には自治会、消防署、消防団に参加を呼びかけている。マニュアルの掲示、説明を定期的に行っている。	隣接する小規模多機能ホームと合同で、消防署立会いのもと、実際の夜間時(18時より)に総合訓練を実施している。訓練終了後には緊急発生勉強会を行い、新たにAEDを設置している。また、自然災害のマニュアルを整備し、昨年の評価後に備蓄を準備するなど真摯に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊重やプライバシー保護は家族にも十分に説明し、利用者の方が傷つかないような声掛け、声の大きさなど特にトイレ誘導等羞恥心を損ねないよう対応をしている。	今年は職員の入替わりがあり、接遇研修を集中的に全職員で実施している。親しみの話しかけの中にも尊厳に配慮した言葉使いや、プライバシーを損ねない対応に努め、手を添えた耳元での会話で「ありがとう」の言葉が双方から自然に発せられ、入居者・職員の信頼関係となっている。写真使用時は家族に同意を取り、守秘義務については事例を通話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすいような雰囲気をつくり、ゆっくりとした時間の中で希望を聞き、自ら決定できるような促しをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にし、誘うときも無理に誘うことなく、何をしたいか希望を聞き自分のペースで日々を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援	本人の意向により衣類の決定をして、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中で身だしなみやおしゃれを促したり、買い物の時も本人同行し購入してもらっている。行事ごとに化粧や飾りなどでおしゃれをしてもらっている。美容室も送迎の対応もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に嗜好調査を反映し、季節や行事に合わせていたりしている。利用者の方が○○が食べたいと申し出があると急に献立を変えることもある。また下ごしらえや配膳、洗い物等職員と一緒にしている。また隣に利用者の方の料理をとって食べる方が見られるのでお膳を使って自他の区別をしてもらっている。	季節のメニューを参考にしながら、入居者の好みに合わせた「今日の献立」を入居者が手書きし、ダイニングに掲示している。入居者は下ごしらえや下膳・台拭きなどを行い、自然発生的に茶碗洗いを手伝われる姿も確認された。嚥下状態に合わせた食事形態や状態により補助食品の利用もあり、職員は介助や見守りし、入居者との会話を弾ませている。行事食やバスハイク時の夕食等も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じた料理形態で提供している。また食事の摂取量が少ないときは、かかりつけの医師に相談し高カロリー食品で対応をしている。また水分の摂取は利用者の好みの飲み物で対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを各自して頂いているが、出来ない人は職員が対応している。週に2回ほどの入れ歯の消毒をおこなっている。また協力歯科医師も定期的に口腔内のチェックに来て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに定期的な声掛けを周りに配慮しながらトイレ誘導している。また本人の様子や行動などで判断している。	排泄チェック表の記録によりパターンを把握し、時間や様子を察した声かけや適時の誘導で、日中はトイレでの排泄を支援している。個々に応じた排泄用品の使用や昼夜のパンツの使い分けや、夜間のみ使用するポータブルトイレの洗浄及び天気の良い日には日光消毒を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排泄状況を把握し水分補給、適度な運動に実施をしている。料理の工夫やヨーグルトの摂取等をしてもらっている。またかかりつけの医師の指示をいただいている。腹部のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望、体調の合わせて隔日が入浴をして頂いている。希望で毎日入浴可能。また菖蒲湯、ゆず湯など季節の湯を楽しんで頂いている。隣のえびす温泉も楽しみの一つです。	ハイダルチェックで入浴可否を見極め、隔日を目途に希望によっては毎日の入浴される方もあり、一番風呂や自分で着替えを準備し楽しみにされる方もある。職員の意見により滑り止めマットを購入し、浴室の温度管理や2人介助で安心と安全な入浴に取り組んでいる。温泉の家族湯等も利用し、拒否の入居者には声かけの方法を検討する等、職員が連携して清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごしてもらっているが、昼ね等時間が長い人は昼夜逆転にならないように気分転換に散歩に誘っている。夏、冬の室温の調整もこまめにし安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については説明書を参考に服薬の支援をしている。かかりつけの医師に薬の見直しをお願いし、量を減らしてもらっています。副作用の症状等あれば直ぐに医師に報告し改善をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の持てる能力を生かし、自分なりの役割分担を決めてもらっている。褒めることや御礼をいうことでやりがいを感じてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせて天気が良いときには近くの公園への散歩や物産館への買い物の手伝いをしてもらっている。桜の花見、菖蒲の花見、お祭り、観音様参り、紅葉見学等多彩です。	日常的な散歩や物産館での買い物など気軽に出掛けている。又、受診時のドライブや自宅への送迎、季節毎の花見やバスハイク等多様に支援し、家族とともに外出や外食にも出かける等家族の協力支援もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小金額の所持は家族の合意で認めている。また、預かり金として小遣いを預かっているので本人希望のときは買い物の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用していただいているがあまり長話にならないようにしている。暑中見舞い年賀状の作成支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に安全、清潔に努め、玄関、リビングには職員が持ってきた生花があり季節感をだしている。また利用者は光、音、温度に敏感であるため常に配慮をしている。壁には工作がしてあり利用者と職員の大作である。利用者の家族の方が定期的に生花を持参いただいている。	リビングの床暖房がされソファと畳のコーナーでゆっくりと談話したり、洗濯物たたみなどを手伝う方、また廊下に造り付けられた畳敷きの腰掛で職員と会話したりと入居者の日常が垣間見られる共用空間である。壁面を利用し貼り絵の大作を飾ったり、職員持ち寄りの生花や、各玄関先には家族作の生花が飾られ、静かな環境のなか、隣接する公園から休日には子供達の声が聞こえメリハリとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には小人数で腰掛られる作り付けのベンチがあり、休憩しながら利用者同士でお話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使ってもらっています。自分が親しみを持った筆筒やドレッサーなどを持ち込み環境の変化を抑えている。また必要時には加湿器等も準備をしている。	家具や仏壇・位牌等を持ち込み、壁面には多くの写真や自作を掲示し、観葉植物を育てる等自分の住処となった居室は整理整頓が行き届き、掃き出し窓からデッキに出入りし、布団干しをしたり、開放的な環境である。本人・家族の意向に沿ったベッド配置であり、温湿度管理を行い健康面にも配慮した居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂などに手すりを付けて安全性を高めている。また部屋にはネームをつけたり、便所、浴室等のプレートがある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケア サポート		
事業所名	グループホーム 若葉園		
所在地	熊本県球磨郡多良木町大字多良木1,537		
自己評価作成日	平成23年11月 3日	評価結果市町村受理日	平成23年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成23年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多良木駅から徒歩で3分のところに位置し、周りにはえびす温泉、えびす物産館、多目的グラウンド等が集まり、環境にはやさしい雰囲気があり利用者の皆様のケアには大変すばらしいところです。同敷地内に小規模多機能ホームわかば園があり、敬老会、運動会などお互いに行き来し交流を深めています。また小規模のホームの隣には共生施設があり、学童放課後保育が行われています。高齢者の方には、子供たちの声を聞くだけでも表情が柔らかくなり笑顔がみられます。学童の子供たちは、夏休みや行事があるたびに駆けつけてくれ、高齢者とのふれあいを大切にしてくれています。これからは地域の人と関わり合いを大切に行きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアーのよく目に付くところに掲示し職員一人ひとりの目環境に配慮しているとともに、毎週月曜日の朝礼にて唱和し、サービスの向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、祭り等に参加したり、学童保育や共生施設の利用によりグループホームにも出入りが増えてきている。町内はもとより、町外からの体験学習の受け入れも、交流は確実に増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	若葉園グラウンドゴルフ大会で認知症のことを挨拶に必ずお話し興味を持っていただいています。また、地区の寄り合い等に参加した時には、短時間の認知症の話させてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーは行政、地域包括、区長、民生委員、家族代表、利用者代表と多彩で、全員の方を指名し意見を述べてもらいます。今年はテーマを決めて認知症の勉強会等行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの情報等は直ぐに連絡をいただいています。園からは、利用者の情報や相談等役所に出向き協力、相談をしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳を第一に、身体拘束、虐待の勉強会を行い、実践に繋げている。また、外出の希望があれば職員付き添いで散歩をしている。夜間施錠が基本としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことは社内研修時に報告をし、虐待に対する考え方を認識してもらっている。また、手のあざ等介護際につく内出血等、介護の工夫も話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用はないが、研修会に参加し、社内ミーティングにて制度について話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には契約書、重要事項説明書の内容を十分に説明し、質問等受付し余裕を持って契約をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の方とコミュニケーションをとり意見を聞きだす事に努めている。近頃は利用者の食事嗜好について献立のメニューを変えて調理をしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体朝礼の時に代表者は経営や運営の意向を伝えまた、週一回のミーティングの終わりには質問、要望等を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の個々の能力を出せるような環境を作り、退職金の導入などやる気の出る職場環境の整備の努めている。		
13		○職員を育てる取り組み			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はもとより資格取得の費用を全額会社負担とし、仕事に対するやる気と自信を持ちながら業務に就けるように支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ではグループホーム協議会が組織され2月に1回の研修会と、12月には忘年会が開催され、交流も盛んである。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所まえの聞き取を参考に本人と家族の不安、要望を聞き取り、安心して生活できるようにカンファレンスにて介護の統一をはかりプランに反映をさせている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より家族の方に園内見学をしてもらい園での雰囲気を感じてもらっている。月末に一月分の利用者の方の生活、体調、行事等、担当者が書面にて報告をしている。病気、事故等はその都度連絡を入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所直後、暫くは頻繁に連絡を取り合ったり面会を促したりして利用者の方が一日でも落ち着き、早くなれていただくように支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできること(掃除、洗濯物干し、たたみ野菜の皮むき、刻み)などできることを職員と一緒にしたり、このごろ利用者の方が他の利用者の面倒を進んで見ていただく光景があります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとに家族の方をご案内し、利用者、家族、職員の信頼関係をつくりお互いに何でも言える環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人面会時には記念写真をとり双方に渡し、再度の来園をうながしたり、出身地域へのバスハイク、祭り等に参加したりする。親戚関係の集まりの時は家族または職員が付き添いで出かける支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の性格や意向を汲み取り、席の配置をかんがえて気分良く生活をしていただいている。利用者間のトラブルの際は職員が直ぐに間に入る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、定期的に病院、施設を訪問し面会をし、そのたびに家族との連絡をとりあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成者は入居前のアセスメントにより本人の希望、意向を確認し、入居後も必要時にカンファレンスを実施し本人の意向の把握するようにしている。意思の疎通が困難な場合は家族との意見交換や入居後の行動、表情などで判断している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、家族、CM等のアセスメントにて生活歴、嗜好、サービス利用の過程等詳しく聞き取り把握をしている。また面会のときに職員からの生活パターンを再確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者、職員は毎日の生活支援の中で、観察記録、情報交換により把握をしている。また本人に出来る事はして頂こうと声掛けするものの無理に作業、レクリエーション等に誘わないようにし、様子を観察をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向を大切にユニットカンファレンスを行い、本人に合うケアプランを全員で検討し作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践にあたり、本人の変化を直ぐに気づく様な洞察力を養いながら、職員全員が記録により情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅希望の利用者が家族の都合で向かえにこれないとき自宅までの送迎や、個々の買い物などの支援等をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、ボランティアの訪問を地域に呼びかけたり、非常時の対応について消防署、行政に指導を仰いだり、共同訓練をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に密な連絡、連携体制がとれており定期的にホームを訪問、緊急時には往診などの対応をしていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身状態の変化を見逃さないように、気付いた情報を看護師に伝え、利用者が適切、迅速に受けられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状況を医療機関に報告し、入院時には看護師、担当医に治療状況の把握をしている。また利用者に安心感を与えるため、職員が毎日のように面会に行き、声掛けや食事の介助など支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、契約時に出来ること出来ないことを家族に伝えている。またホームで出来る支援を家族、かかりつけ医、管理者、職員と協議し医師の指示の下に支援をしている。必要時には医師より家族に説明をおこなってもらっている。職員に対し終末期の介護支援の講習をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署、協力医を招き講習をおこなっている。また、緊急時に備えマニュアルをよく見える所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練には自治会、消防署、消防団に参加を呼びかけている。マニュアルの掲示、説明を定期的に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊重やプライバシー保護は家族にも十分に説明し、利用者の方が傷つかないような声掛け、声の大きさなど特にトイレ誘導等羞恥心を損ねないよう対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすいような雰囲気をつくり、ゆっくりとした時間の中で希望を聞き、自ら決定できるような促しをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にし、誘うときも無理に誘うことなく、何をしたいか希望を聞き自分のペースで日々を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向により衣類の決定をしてもらったり、買い物時も本人同行し購入してもらっている。行事ごとに化粧や飾りなどでおしゃれをしてもらっている。美容室も送迎の対応もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に嗜好調査を反映し、季節や行事に合わせていたりしている。利用者の方が○○が食べたいと申し出があると急に献立を変えることもある。また下ごしらえや配膳、洗い物等職員と一緒にして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じた料理形態で提供している。また食事の摂取量が少ないときは、かかりつけの医師に相談し高カロリー食品で対応をしている。また水分の摂取は利用者の好みの飲み物で対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを各自して頂いているが、出来ない人は職員が対応している。週に2回ほどの入れ歯の消毒をおこなっている。また協力歯科医師も定期的に口腔内のチェックに来て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに定期的な声掛けを周りに配慮しながらトイレ誘導している。また本人の様子や行動などで判断している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排泄状況を把握し水分補給、適度な運動に実施をしている。料理の工夫やヨーグルトの摂取等をしてもらっている。またかかりつけの医師の指示をいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望、体調の合わせて隔日に入浴をして頂いている。希望で毎日入浴可能。また菖蒲湯、ゆず湯など季節の湯を楽しんで頂いている。隣のえびす温泉も楽しみの一つです。		
46		○安眠や休息の支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごしてもらっているが、昼ね等時間が長い人は昼夜逆転にならないように気分転換に散歩に誘っている。夏、冬の室温の調整もこまめにし安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については説明書を参考に服薬の支援をしている。かかりつけの医師に薬の見直しをお願いし、量を減らしてもらっています。副作用の症状等あれば直ぐに医師に報告し改善をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の持てる能力を生かし、自分なりの役割分担を決めてもらっている。褒めることや御礼をいうことでやりがいを感じてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせて天気が良いときには近くの公園への散歩や物産館への買い物の手伝いをしてもらっている。桜の花見、菖蒲の花見、お祭り、観音様参り、紅葉見学等多彩です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小金額の所持は家族の合意で認めている。また、預かり金として小遣いを預かっているので本人希望のときは買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用していただいているがあまり長話にならないようにしている。暑中見舞い年賀状の作成支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり	常に安全、清潔に努め、大間、リビング、ダイニング		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に女王、清潔に努め、玄関、リビングには職員が持ってきた生花があり季節感をだしている。また利用者は光、音、温度に敏感であるため常に配慮をしている。壁には工作がしてあり利用者と職員の大作である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には小人数で腰掛られる作り付けのベンチがあり、休憩しながら利用者同士でお話をされている。冬はコタツを利用してお話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自田に使ってもらっています。自分が親しみを持った筆筒やドレッサーなどを持ち込み環境の変化を抑えている。壁にも写真等たくさん貼ってもらっている。必要時には加湿器の準備もある。仏壇の持ち込みもある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂などに手すりを付けて安全性を高めている。また部屋にはネームをつけたり、便所、浴室等のプレートがある。		